

新聞記事には様々な地名や人名、略語などが出てきますが、これらの表記については新聞社ごとに取り決めがあります。朝日新聞ですと、一冊にまとめた「朝日新聞の用語の手引」を書店で購入することができます。新聞社によってどのような表記の違いがあるのか、比べてみるとよいでしょう。

10月以降、紙面によく登場した「iPS細胞」「TPP」「習近平」について、5つの全国紙を比べてみましょう。

まず、「iPS細胞」ですが、朝日新聞は「iPS細胞（人工多能性幹細胞）」と表示しており、毎日、産経も同様です。読売は少し前まで「iPS細胞（新型万能細胞）」としていましたが、最近は朝日などと同じ表記になっています。日経は「iPS細胞」だけで、訳語を付けていません。

「TPP」は、大辞泉第二版には、〈環太平洋諸国が締結を目指して交渉を行う広域的な経済連携協定。原則として全品目の関税を撤廃する（略）。環太平洋連携協定。環太平洋経済連携協定。環太平洋パートナーシップ協定〉とあります。朝日、読売、日経は「環太平洋経済連携協定」、毎日は「環太平洋パートナーシップ協定」、産経は「環太平洋戦略的経済連携協定」としています。TPPが何の略なのか、辞書で調べさせましょう。(Trans-Pacific Partnership)

中国と朝鮮半島を除く外国の地名や人名は、原則として現地の呼称に従って片仮名で書きます。中国共産党の習近平総書記については、朝日は「シーチンピン」、読売は「シージンピン」、毎日は「しゅうきんぺい」とルビを振っています。産経と日経にはルビがありません。地名や人名など、当然同じ表記だと思いがちですが、複数紙を併読することにより違いも分かってきます。

(鈴木伸男 全国新聞教育研究協議会顧問)